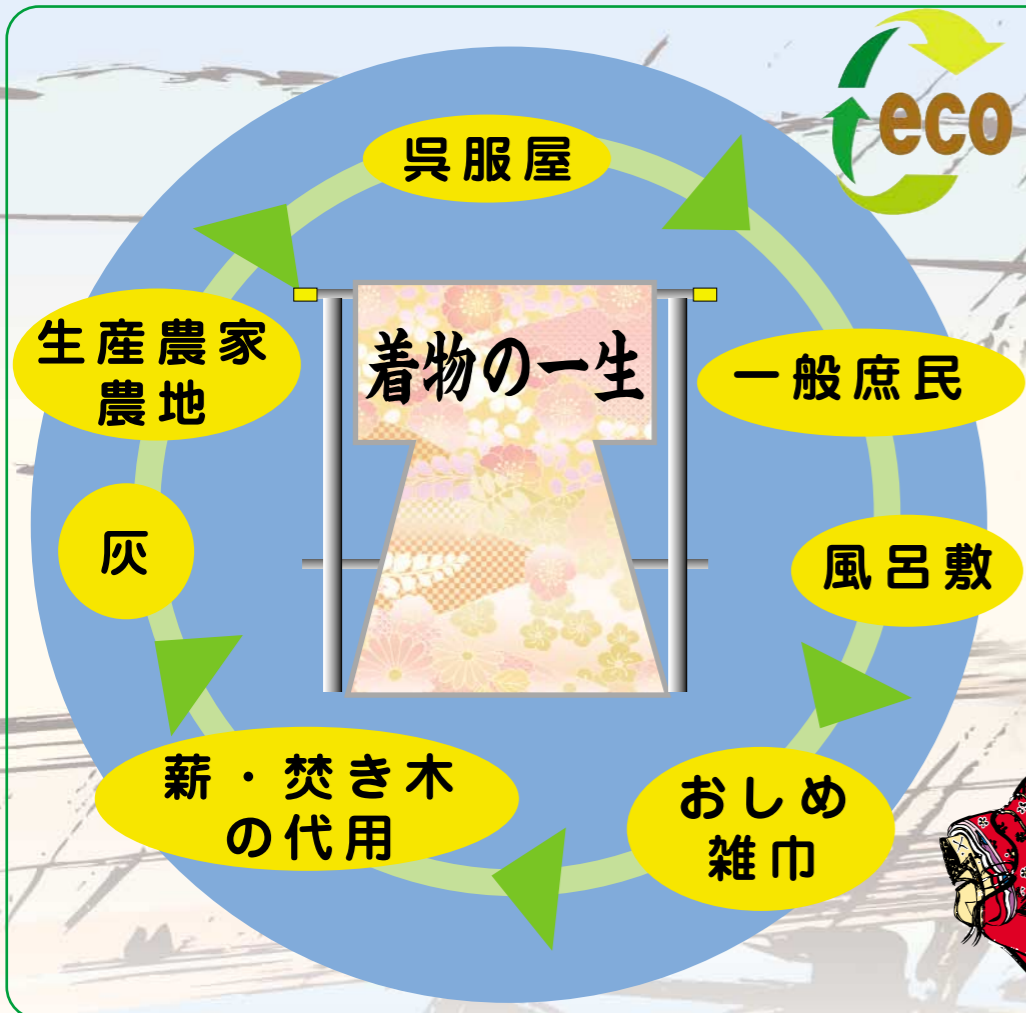


# ecoな生活江戸に学ぼう!



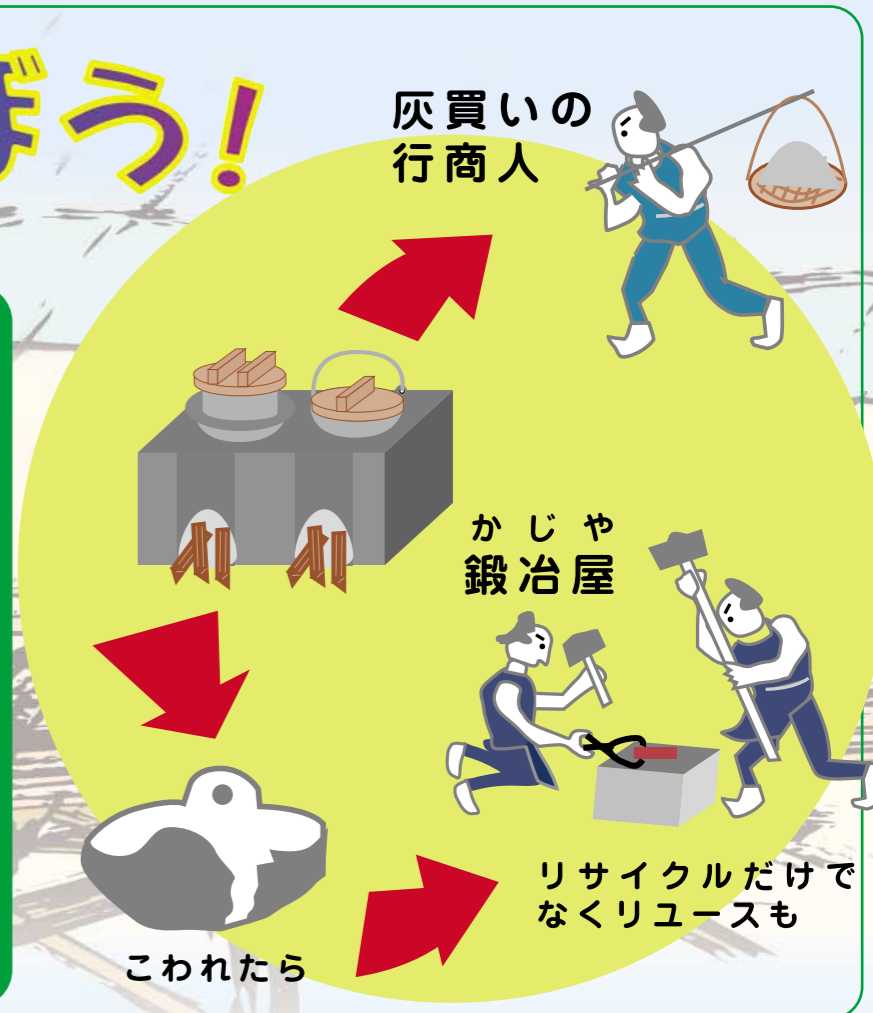
## ごみさえも循環させる環境に優しい仕組み

環境面で見ると、江戸時代の日本はとても優れた社会でした。その根底にあったのは、人間をはじめとする動植物によって消費されたものすべてが自然に還り、再生されてまた生命を維持するエネルギーを提供するという循環です。

都会生活をしている人は、ごみを直接土に還す機会はほとんどありませんでしたが、それらは仲買人をおして確実に生産地に届けられ、畑の肥料になりました。

またそれらのごみは煮炊きするための薪の代わりや暖をとる火として庶民に利用されることも多かったのです。紙や木、麻や木綿などの植物性製品は、燃焼すると二酸化炭素を出して植物に吸収されます。植物はこの二酸化炭素と太陽の光で成長し、食べ物や繊維など人間の必需品を生成してくれます。

薪として燃やされた物の残骸である灰は、一般家庭ばかりでなく、さまざまな産業にも欠かせないものでした。灰買いの行商人が各家庭を訪問して仲買をするほど価値がありました。庶民は自分の家で使う分を残して、灰を売って生活の足しにしました。(T.A)



## 日本人はブータンの人の150倍「紙」を使っている

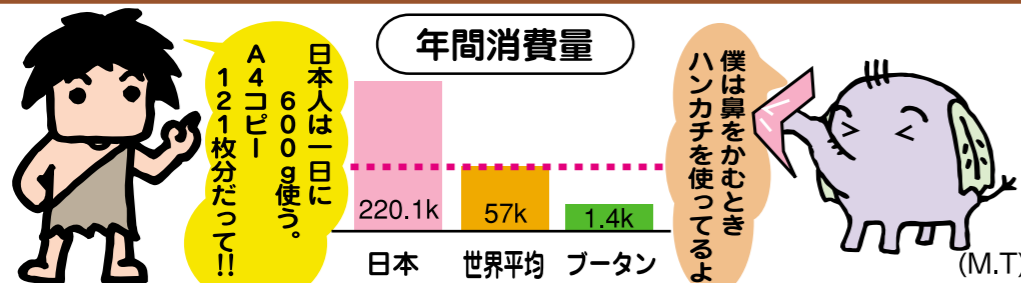
紙といってもいろいろ日常生活のティッシュ、トイレトペーパー、本類、コピー用紙、産業で使うダンボールなど

世界全体で平均すると年間1人 **57kg**の紙を使っているらしい。

ちなみに、紙・板紙の生産量については、日本は中国、アメリカに次いで3番目に多い。(2,663万トン)

### 国民一人あたりの年間消費量(2011)は?

多い順	少ない順
1位 ベルギー 317.4キロ	1位 アフガニスタン 0.2キロ
2位 オーストリア 260.7キロ	2位 タジキスタン 1.1キロ
3位 ドイツ 243.2キロ	3位 ネパール 1.2キロ
4位 アメリカ 230.6キロ	4位 <b>ブータン 1.4キロ</b>
5位 アラブ首長国連邦 224.8キロ	5位 ハイチ・ラオス 1.6キロ
6位 <b>日本 220.1キロ</b>	



## あきる野市の「ごみ処理費用」は…

あきる野市ではごみにかかる処理費用は赤ちゃんから高齢の方まで一人当たり、1ヶ月で約1,250円です。

(4人家族の場合1,250円×4人=約5,000円)



一方、世界でいち早く「ゼロ・ウェイスト」宣言をしたオーストラリアの首都キャンベラ市の費用はあきる野市の1/5の約250円です。この金額の違いの理由の1つには生ごみを燃やせず、環境的にも経済的にも優れている家庭での堆肥化が進んでいることがあります。少しの手間で生ごみの量が激減し、有料ごみ袋代も減ります。

今日からあなたも生ごみの堆肥化にチャレンジし、税金も家計もスリムにしませんか?

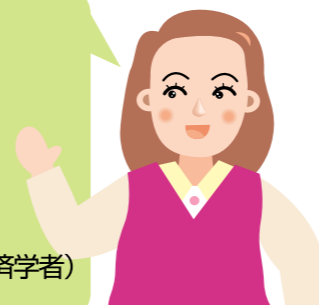
※ゼロ・ウェイストとは明確な達成目標を設定し、焼却せず環境負荷を減らしながら具体的にごみを出さないようにする手法のこと。

### ゼロ・ウェイストの3大目標は

1. 有害物質を排出しない。
2. 大気汚染しない。
3. 資源を無駄にしない。

参考資料「ゴミポリシー」

ロビン・マレー著 (英国産業経済学者)



(T.A)

## 自然の循環の中で生活する。



リサイクルの中には新たな資源とエネルギーを使うものがたくさんあります。その点、生ごみの堆肥化は自然が育ててくれた食物の残りを、再び自然の中に返すもので、新たな資源とエネルギー(人の労力は除く。人が持つエネルギーは大いに使うべきです)をほとんど必要としません。人の生活が自然の循環の中にすっぽりとはまり込んでいて、その意味でリサイクルの優等生と言えます。

雨水の利用もそのような自然の循環の中での生活といえましょう。私の家では家の横にポリバケツを四つ置いて雨水を溜め、その水をジョウロで庭の草木にやっています。バケツには1時間50ミリの大雨が降っても、そのままでは50ミリ=5センチしか雨水はたまらないのですが、幸か不幸か築30年以上経っている私の家の雨樋は詰まったり破損していたりで、樋から大量の雨水があふれ出します。15~30分まとまった雨が降れば、バケツはたちまちいっぱいになります。

今まで夏は夕方になると水道の蛇口から長いホースを引いて庭に水をまいていたのですが、今年の夏は水道水をほとんど使うことなくのりきる事が出来ました。(Y.S)